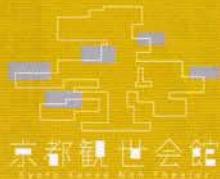


Doors open 10:00

Kyoto Kanze Regular Performances 22 Sun Feb. 2026 11:00 a.m.-2:30 p.m.



# 京都観世会二月例会

令和8年2月22日(日) 午前11時 開演 (午前10時開場)

&lt;能&gt;

Ukon

右 近  
井上嘉介

&lt;狂言&gt;

Gandaimyo

雁大名  
小笠原由祠

&lt;狂言&gt;

Nomori

野 守 白頭  
分林道治

主催 公益社団法人 京都観世会

## TICKETS

1/10 10:00 発売

一般前売指定席券 (1階) ¥9,000 Advance reserved seat (1st floor)

一般前売自由席券 ¥7,000 Advance non-reserved seat

一般当日券 (自由席) ¥7,500 Same-day (Non-reserved seat)

学 生 券 (2階自由席) ¥3,000 Student (2nd floor)

Noh Play Theater  
Kyoto Kanze Kaikan**京都観世会館**

〒606-8344

京都市左京区岡崎円勝寺町 44  
(東山仁王門東入)

  
お問い合わせ・お申込み  
京都観世会館  
Tel : 075-771-6114  
<http://www.kyoto-kanze.jp>
※通信講座受講生、放送大学、  
老人大学は一般料金です。WEB予約で座席指定できます。  
電子チケットチケット販売も選択できます。

チケット販売

地下鉄東西線「東山駅」①番出口から歩徒約5分  
京都市バス「岡崎公園 美術館・平安神宮前」下車  
徒歩約3分「東山仁王門」下車徒歩約5分  
東隣に有料駐車場(約20台)がございます。

日本語 Map



English Map

# 京都観世会二月例会

## 後見・地謡

### 解説

右近

鹿島の神職（ワキ）が都に上り、北野神社の東南にある右近の花見に行き、貴女（ツレ）が花見車に乗り侍女（ツレ）を連れてあらわれ木蔭に休んでいるのを見つける。そして、昔業平がこの場所で女車を見て詠んだ故事を思い出し、ふとその古歌を口ずさんだところからこの貴女と語り合う。やがて女は北野の縁起を語り、自分は北野の末社桜葉の神であると告げて、花の陰に隠れ失せる。

（中入）その後、桜葉の神（後シテ）は眞の姿で現われ御代をたたえて、歌舞を奏するというストーリーである。

構成は、普通の脇能と似ているが後シテが女体であるのは「佐保山」とこの曲ぐらいである。従つて、後の舞も、常の脇能では「神舞」か「序之舞」だが、この曲は「中之舞」となる。

前段のシテ、ワキの掛け合も「伊勢物語」に材をとった恋物語に近いもので語全体を通じて、三番目物的色彩の濃いのが特徴。桜花を背に、女神に舞を舞わせるのが曲のねらいで、優美で気品のある異色の脇能である。

野守（もりしゆ）  
白頭（はくとう）  
出羽国羽黒山の山伏が大峰葛城山へと志し、途中大和國春日の里に着くと、一人の野守の翁と出会う。そこで近くにあつた謂われのありそな池について尋ねると、翁は「これは野守の鏡といつて尋ねたたちのような野守が影を映す水である。本当の野守の鏡とは鬼神の持つ鏡のことだ。その鬼神は晝は人となつてこの野を守り、夜は鬼となつてこの塚に住んだのだ」と答える。さらに「はし鷹の鏡得てしがな思ひ思はず外ながら見ん」という歌はこの池について詠まれたのかと尋ねると、翁は、「昔この野で御狩のあつた時、御鷹の逃げたのがこの水に映つて行方が知れたことから、その歌が詠まれたのだ」と語る。山伏が眞の野守の鏡を見たいというと、翁はこの水鏡を見られよといつて塚の中へ消え失せる。

（中入）山伏がこの奇特を喜んで塚の前で祈ると、鬼神が鏡を持って現れ、天地四方八方を映して見せた後、大地を踏み破つて奈落の底に入る。

侍女 橋本充基  
貴女 浅井風矢  
（能）

桜葉ノ神職 井上嘉介 従者 有松遼一 大鼓 河村凜太郎

鹿島ノ地謡 岡充 陸 小鼓 曾和鼓堂

太鼓 井上敬介 太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親

吉浪壽晃

太鼓 井上敬介

太鼓 信太朗

笛 杉 信太朗

（後見） 河村晴久 河村晴久

杉浦豊彦 地謡 鷺尾世志子

橋本忠樹 吉浪壽晃

大江信行

河村浩太郎 松野浩行

浦田保親